

# 回会報

発行  
新日本美術協会

事務局  
千葉県柏市大津ヶ丘  
3-17-17-401  
森屋治三方  
Tel 04-7191-6760

編集委員  
小高峯夫  
富岡 亨  
大石

## 二十二年定期総会開催される

六月六日午後二時半、東京芸術劇場第七会議室において、委員会に引き続き総会が開催された。総合同会井上委員のもと、森屋事務局長の開会の言葉のあと、中尾会長の挨拶があり、議事には、議長に久保田委員、書記に山崎委員、議事録署名人に富岡、荒木両委員が指名された。

総会出席人数三十三名、委任状百七名と合わせ総会成立が確認され議事審議にはいった。

一号議案として二十一年度の事業報告、収支決算書並びに財産目録の承認を求め、二号議案として二十二年事業計画案、収支予算案が森屋事務局長および鈴木会計担当委員からそれぞれ資料提示説明がなされ議案通り採決承認された。

その他の件として千木良会員から二件の提案がなされ別途委員会で審議することになった。その一、新日美展要項に記載されている外部委嘱審査員によるギャラリートークは全審査員を含めたらどうか、その二、審査は公開審査とする旨記載したかどうか、の二件。

次に事務報告、新委員、新会員の紹介がなされ議事終了、事務局長の閉会の言葉の後、和やかな談話タイムとなった。

## 中尾会長挨拶

忙しい中お集り頂き有難うございます。三十四回展を迎えるに当り、振り返るとこれまで何人も事務局長の交代や、いろいろの変遷があり、ここまでやってきた。これも役員他皆の力、いろいろあつてのことと、苦勞様でしたとお礼申し上げます。創立会員も誰もいなくなり私だけになった。今、都美術館で中堅の団体にまで成長したがこれからまだまだ新日美は発展しなければなりません。

ここにいる新日美を支える一人一人が決意をもつて真剣に取り組み協力していけばかならず日本を代表するような団体になることが出来ると思っております。能力ある特定の人だけで進むのではなく、民主的に全員が参加し、全員野球でやっていかなければならないと思えます。

そしてせっかく絵を始めここまでやってきたのだから、自信を持って、やってもらいたい。その資格は一人一人皆持っているわけ、自分は素人だからとか、これくらいまでとか、などと思いきや、それらは間違いです。人はこうやると思えば、必ず実現するものなのです。例えば中川一政は、私は素人で美術学校など出ていないんだが、人には決して負けない位、ガムシヤラに努力をしたおかげで成長した自分を自覚出来たと手記に残しています。

本当に真剣に取り組みばだれでもそうなるのです。

そうならば若い人が育ち、会も充実し、ひいては文化の向上発展に寄与出来ると思っております。  
(要約して一部を掲載しました)

## 応募者勧誘協力をお願い

森屋事務局長

前号会報でも述べましたが、上野の森美術館の開催に向け、本部では実行委員長を中心に着々と準備をしています。

展覧会々場及び業者の変更で、出品要項は大幅に変更されております。特に、搬入(出)要領については十分にお読みいただき、疑問点などあれば、何でも、何時でも遠慮なく事務局又は業者へお問合せをお願いします。

さて、本題に入りますが、本部では、応募者増加のため広報宣伝に努めているところですが、どうしても限界がありまして、皆さんにもご理解を頂き、協力を仰がねばなりません。

勧誘に際して「公募展」に出品するメリットなどについて考えさせられることがあります。公募展での作品発表は、他の出品者との交流、作品の相互比較、多くの来場者に鑑賞してもらえ、また、会場に足を運ばない方々にとっては実績ある公募展へ出展、認められることは大いに作家活動の意識を高めて制作のプラスとなっていくことになるのではないかと思います。

一方、私たち新日美には、公募団体の使命として、新人の育成と美術文化の向上発展に寄与するという目的もあ

ります。端的に言えば、会員以外にも多くの一般応募者が出展することにより、より多くの新人の才能を育み社会で活躍する作家を育てる。ということになると思えます。どうか、同封した「応募要項」などお近くの作家の方々に配布、勧誘いただきたく宜しくお願いする次第です。

なお、本展では、展覧会をより活性化するため、画評会、ギャラリートーク等、来場者と一体となった展覧会となるよう努めています。

※本部関係広報宣伝状況：二枚の絵、美術の窓、新美術新聞いずれも8月号に応募広告を掲載します。

また、美術の窓(5月号)には美術団体関連特集記事があり、各美術団体のポリシー、美術団体に所属するメリットなど当会の記事も掲載しています。

## 22, 23年度の会費納入はこうなります 年会費+特別出品料(1万円)

第34回展開催のため、上野の森美術館への支払いも大半は済みしました。しかし5月以降残金と会場設営費の支払い。35回本展予約金の払い込み、また「新都美術館」での開催準備金もプールしておかなければなりません。

会員の皆様には以上の理由を斟酌していただき、どうかご協力を切にお願いいたします。

委員: 35,000+10,000      会員: 30,000+10,000  
準会員: 25,000+10,000      会友: 20,000+10,000

ご不明な点は 会計 鈴木忠義まで問い合わせ下さい

携帯 090-3435-3564